

第26期・第3回「共生社会に向けたケアサイエンス分科会」議事録

日 時：令和6（2024）年7月7日（日）18:00～20:00

参加者：熊谷晋一郎，森山美知子，西村ユミ，和氣純子，臼井恵美子，大江美佐里，田中真美，今中雄一，内富庸介，山川みやえ，山田あすか，山本則子，松岡洋子（ゲスト）

方 法：オンライン会議

議事録：山田あすか

資 料：

- (1). 第1回『わたしたちごと』としてのケア ～ 家族だけでも，専門家だけでもなく』の開催について
- (2). 今後のスケジュール

議事：

- (1) 第1回のシンポジウムについて（素案資料を確認しつつ，詳細の審議）

- ・開催日時は令和6年11月24日 13時～16時 と決定
- ・シンポジウムの内容は以下の通り（概要）

少子高齢・人口減少社会が急速に進む日本では、これまでの制度や単一の学問の力では解決困難な複雑な問題が急増している。我々が提案する「ケアサイエンス」とは、ケアに関わる複雑な問題の根拠を解明するだけでなく、多くの学問分野の連携のもと、あらゆる市民、行政、企業等と連携・協働して、**〈新しいケア〉とケアを核とする社会モデル**のあり方を模索し、共に作り上げていく学術と教育が連動する活動を意味する。この活動を通して、人々の暮らしにケアサイエンスとその成果を根づかせることで実現する相互支援社会を「ケア共同社会」と呼び、その構築を目標として掲げている。

本シンポジウムは、誰もがケアし、ケアされるケア共同社会の実現に向けて、1) ケアサイエンスとケアの担い手について、2) ケア・イノベーションについて、3) ケアのあり方について、をそれぞれのテーマとする3回のシリーズの初回にあたる。これらの連続シンポジウムにより、人間にとってケアをする／されることの意味やケアの双方向性・重層性など多方面からの考察を行い、ケアサイエンスという新しい学問的見地から、直面している問題の核心を探る。そして、関連する学問分野や実践活動の担い手、制度の担い手など多様な関連主体がより効果的に連携・協働できる提案や見解を見出すことを目的とする。

初回シンポジウムでは、まずこれまでのケアサイエンスの到達点を概観して参加者と現状の共有を行う。さらに、第一部としてケアの担い手と担い方、ケア観の変化について話題提供を行う。第二部では、これらの話題提供をもとに、ケアサイエンスの普及と実装に向けた課題や進め方、目指すところについてのディスカッションを行う。多分野の話題提供者・登壇者および参加者の皆様との議論を通して、ケアの価値観を共有し、ケアをあたりまえのものとして共に生きる社会をつくり育てていくために講じるべき策について検討する。

- (2) 今後のスケジュール

- ・JANA・理事会に申請書を提出，主催分科会・親委員会に申請，幹事会に報告
- ・各学術団体等に，担当から後援の依頼，ポスター準備等

以上